

瀬田川プランクトン調査結果速報

滋賀県立衛生環境センター
平成11年6月7日 第10報

植物プランクトン

(綱) 種 名	細胞数 (群体数)	優占種(占有率)	
		数	体積
(藍) <i>Oscillatoria sp.*</i>	10		
(黄鞭) <i>Chrysamoeba radians</i>	20		
(黄鞭) <i>Mallomonas sp.</i>	20		
(珪) <i>Melosira granulata var. angustissima f. spiralis</i>	10		
(珪) <i>Cyclotella sp.</i>	130		
(珪) <i>Stephanodiscus carconensis var. pusilla</i>	20		
(珪) <i>Skeletonema potamos</i>	70		
(珪) <i>Attheya Zachariasii</i>	10		
(珪) <i>Fragilaria crotonensis</i>	310		
(珪) <i>Asterionella formosa</i>	38		
(珪) <i>Synedra sp.</i>	10		
(珪) <i>Acnanthes minutissima</i>	10		
(珪) <i>Nitzschia holsatica</i>	29		
(珪) <i>Nitzschia acicularis</i>	20		
(渦) <i>Peridinium berolinense</i>	40		
(渦) <i>Peridinium penardiforme</i>	10		
(褐) <i>Cryptomonas sp.</i>	100		
(褐) <i>Rhodomonas sp.</i>	260		
(緑) <i>Tetraspora lacustris</i>	48		
(緑) <i>Micractinium pusillum</i>	160		
(緑) <i>Dictyosphaerium pulchellum</i>	64		
(緑) <i>Ankistrodesmus falcatus var. mirabile</i>	20		
(緑) <i>Pediastrum biwae</i>	32		
(緑) その他の緑藻	10		
(他) <i>Tetraselmis cordiformis</i>	20		
(藍) 藍藻綱	10	0.7	0.2
(黄) 黄緑藻綱	0	0.0	0.0
(黄鞭) 黄色鞭毛藻綱	40	2.7	3.5
(珪) 珪藻綱	657	44.7	33.3
(渦) 渦鞭毛藻綱	50	3.4	2.7
(褐) 褐色鞭毛藻綱	360	24.5	28.9
(み) みどり虫藻綱	0	0.0	0.0
(緑) 緑藻綱	334	22.7	9.9
(他) その他のプランクトン	0	0.0	21.6
総細胞数	1471	総体積	7.4E+05
種類数	25	(μm^3)	

注1) 細胞数の単位は(細胞/ml)

ただし*印の種は群体数(群体/ml)

注2) 優占種は が第1優占種、 が第2優占種
数字は各綱ごとの占有率(単位:%)

注3) 細胞体積は、顕微鏡観察による画像から
試験的に推定した概算値である。

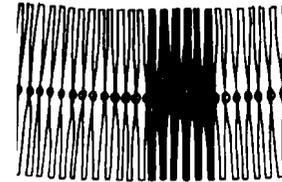
動物プランクトン

第1優占種		個体数 (個体/l)
輪虫類	<i>Polyarthra vulgaris</i>	280

第2優占種		個体数 (個体/l)
繊毛虫類	<i>Epistylis plicatylis</i>	220

*個体数については、プランクトンネットで採取したものを直接検鏡して計測した。

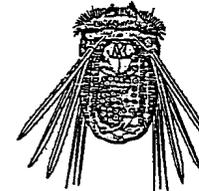
植物プランクトン第1優占種



Fragilaria crotonensis
(オビケイソウ)
珪藻綱

多数の細胞が中央殻面で互いに接しあって、帯状の群体を形成して浮遊する。

動物プランクトン第1優占種



Polyarthra vulgaris
(ハネウデワムシ)
輪虫類

体は四角く、横に鳥の羽状の付属物が4ヶ所付いている。
前部に2本の触角がある。

コメント:

淡水赤潮の原因となるウログレナは、まったく観察されなくなり、本種に替わり、珪藻のフラギラリアが先週から優占種となっている。前回と同様に細胞数、占有体積のいずれでも、珪藻が占める割合が50%程度となっており、植物プランクトン相が変化したことを示している。動物プランクトンで第2番目の優占種となったエダワカレツリガネムシは、枝状の体(柄)が伸縮しない特徴を有する種である。